

氏名	政 岡 則 夫
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	博乙第 1909 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和 63 年 6 月 30 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	涙液分泌における交感神経の役割 第 1 編 白色ウサギ涙腺内の交感神経支配に関する組織化学的および電子顕微鏡学的観察 第 2 編 上頸交感神経節刺激後の涙腺組織血流量と分泌顆粒の変化
論 文 審 査 委 員	教授 堀 泰雄 教授 中山 沃 教授 増田 游

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

交感神経の主涙腺よりの涙液分泌に対する作用を解明する目的で、第 1 報では主涙腺内の交感神経の分布を観察した。その結果、Faglu 法によりノルアドレナリン蛍光陽性線維（NA 線維）は血管と腺房周囲に認められた。しかし、NA 線維は導管周囲には認められなかった。また、電子顕微鏡を用いた観察で、ノルアドレナリン作働性神経膨大部と腺細胞とは 160 nm ～ 920 nm の距離を介していることがわかった。これより、交感神経が血管ならびに腺房に作用する可能性が示唆された。

次に第 2 報では、上頸交感神経節の電気刺激を行ない、涙腺組織血流量と腺房細胞内の分泌顆粒の変化を測定し、交感神経の血管と腺房細胞への作用を生理学的に検討した。その結果、上頸交感神経節の刺激終了直後に涙腺組織血流量は有意に減少し、分泌顆粒は刺激側涙腺において減少することが判明した。以上より、交感神経の主涙腺に対する作用として、血管より腺腔側への水分輸送の抑制作用と分泌顆粒の分泌促進作用が存在する可能性が示された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は交感神経の主涙腺よりの涙液分泌に対する作用を解明する目的で、組織学的に主涙腺内のノルアドレナリン線維の分布をしらべ、また上頸交感神経節の電気刺激による主涙腺組織血流量の変化と腺細胞内分泌顆粒の増減をしらべた。その結果、交感神経の作用は血管より腺腔側への水分輸送の抑制と、分泌顆粒の分泌促進であろうと推測

しうる成績を得た。これは眼科学領域における重要な新知見を得た価値ある業績である。
よって、本研究者は医学博士を得る資格があるものと認める。